

第1部

みなさんの描いた
福岡市の将来の姿

みなさんからの思いのこもったご提案、このまちがこうあって欲しいという願いは、それぞれ興味関心分野、価値観などが多岐にわたっており、一つの姿にまではなりません。しかし、思いあふれるそれらのご意見は、表現は違っていても同じ方向をめざしているものも多く、将来のまちのあり方についても、いくつかのまとまった姿が見えてきました。それが、この「みなさんの描いた福岡市の将来の姿」です。

女性・子ども・教育	<ul style="list-style-type: none"> ◆キラキラ輝く女性が日本で一番生き生きと活躍するまち ◆世界に羽ばたくオンリーワンの子どもたちが健やかに成長するまち ◆大学の魅力が人をひきつけ、学びから生まれる活力で、元気と活気があるまち 	健康・福祉・高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ◆アジアの諸都市のモデルとなる、高齢者が活躍し安心して歳を重ねられるまち ◆ユニバーサルデザインですべての人が住みやすいまち ◆心をゆったり幸せに暮らせるストレスフリーなまち
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ◆コミュニティの再デザイン、新たなつながりが生まれる対話と交流のまち 	生活基盤・交通	<ul style="list-style-type: none"> ◆既存のストックの利活用で美しさと新たな価値観を生み出すコンパクトなまち ◆量の交通から質の交通へ転換するまち
自然・環境	<ul style="list-style-type: none"> ◆「もったいない」が一步進んだ、環境・エネルギー技術のショーケースとして発展するまち 	安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ◆発展と治安の両立した、皆が安全で安心して暮らせるまち
歴史・文化・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ◆歴史・文化・スポーツで充実した市民の時間が、世界をひきつけるまち 	観光・集客	<ul style="list-style-type: none"> ◆来街者がドラマを感じる、わざわざ行きたくなる吸引力のあるまち ◆祝祭が年中ある、非日常を楽しむエンターテインメントシティ
農林水産	<ul style="list-style-type: none"> ◆九州の安全・安心で美味しい食を、アジアに売り出すまち 	アジア・国際化	<ul style="list-style-type: none"> ◆外国人も住みたがり、多文化が日常化した、ボーダーレスなアジアの拠点になるまち ◆学び続ける多言語教育のまち ◆九州が一つの都市圏になって成長し発展するための核となるまち
港湾・空港	<ul style="list-style-type: none"> ◆利便性の高い空港と港湾でアジアに直結するまち 	産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ◆働く場がたくさんあり、わたらしい働き方が選べるまち ◆国境を越えてプレイヤーが羽ばたき、夢が成長のエネルギーになるチャレンジのまち ◆企業から選ばれ、愛され住みたいと思われる憧れのまち

1 女性・子ども・教育

(女性・子ども)

『キラキラ輝く女性が日本で一番生き生きと活躍するまち』

『世界に羽ばたくオンリーワンの子どもたちが健やかに成長するまち』

- 女性の力を社会で活かしていけるよう、安心して出産・育児ができるよう、ワークライフバランスを進める。
- 心のこもった独自の教育などにより、子どもが健やかに成長する支援を行う。
- まち全体で子どもを育てていくような体制をつくり、また、子育てを中心に働き暮らせるような価値観を根付かせていき、子どもを増やしていく。

提案された取組み

- ・ショッピングとネイル、美容室、エステを組み合わせた美容ツアー「きれいになるプロジェクト」を推進する。
- ・女性を惹きつける都市、子育てしやすいまち、合計特殊出生率日本一、というような都市のビジョンを掲げる。
- ・子づくり減税など、働く女性が2人目、3人目の子供を持てるような環境を整備する。
- ・女性の管理職比率、取締役比率の目標値を設定する。
- ・男性の育児休業取得率100%を目指す。
- ・家事サービスを安い金額で頼める仕組みをつくる。
- ・高齢者が生き甲斐として子どもと触れあい、面倒をみるような仕組みをつくる。
- ・入札制度に男女共同参画への取組みの指標を取り入れる。

(教育・大学)

『大学の魅力が人をひきつけ、学びから生まれる活力で、元気と活気があるまち』

- すべての世代に開かれた学びの場を創造し、住む人すべてに学びと活気があるまちにする。
- 「学びの場」、「知の拠点」としての大学の魅力が人を惹きつけ、大学生・留学生在が快適に過ごせ、Uターン、Iターンなどで外の知識・経験が集まるようにする。
- 人材をテーマとして存在感を増していくことで、どのような時代になろうと、どのような分野が注目されようと魅力にあふれ活力を持った都市になる。
- 道徳教育、社会性を養う教育を中心とした、「福岡版生きる力」を育てる学習を充実させる。

提案された取組み

- ・福岡都市圏の大学を九州大学の跡地に集め、複合型キャンパスの新しいモデルをつくる。
- ・中小の大学が個々の特長を生かしてネットワーク化した「福岡大学連合システム」を整備する。
- ・百道におけるISIT(財団法人九州先端科学技術研究所)のような知の呼び水となる研究施設を九大学研都市にも設け、第4次産業の核にしていく。
- ・九州大学、福岡大学、久留米大学、産業医科大学などを含めた医師の連携による医療観光を実施する。
- ・時代の変化の中で強く生きていく教育・訓練、健康的なハングリー精神を身につける教育を実施する。
- ・新エネルギー、ヘルスケア、ソーシャルサービスなど有望な産業分野に行政と大学群が連携して力を入れていく。
- ・アジア太平洋子ども会議などを活用してグローバルシチズンを育成する。

2 健康・福祉・高齢化

(健康・福祉・高齢化)

『アジアの諸都市のモデルとなる、高齢者が活躍し安心して歳を重ねられるまち』

- 少子高齢化が進展する中、高齢者がいきいきと健康に暮らせ、働け、活躍できる社会システムを構築することが必要である。
- 社会福祉や医療が充実したシステムを構築できれば、そのシステムは、今後、少子高齢化が進むアジアの明るい将来モデルとなり、アジア共有の財産となる。

提案された取組み

- ・日本より遅れて人口構造の変化(少子高齢化)が起こる東アジアなどへ、高齢化対応のノウハウを移転し、新たなビジネスチャンスにつなげる。
- ・ICカードを利用して高齢者の行動分析を行うなどにより、高齢者の就業機会や、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスなどの新しい就業形態へつなげる。
- ・介護保険事業などで得られた有用なデータをデータベース化し、研究機能を備えたアジア地域の高齢化の拠点基盤化に取り組む。
- ・高齢者が年金等だけに依存せず、自己参加や役立ちによる収入財源を持つような生活、社会システムを構築する。
- ・農業・林業・水産業において、高齢者が活躍できる場をつくる。
- ・ふくおか恋愛都市宣言を行い、恋愛の力で健康になり、消費意欲が高まり、孤独死を防ぐ。

(ユニバーサルデザイン)

『ユニバーサルデザインですべての人が住みやすいまち』

- お互いがお互いのことを思いやり支えあう、みんなが優しい、世界で一番幸せなまちを目指して市民目線でまちづくりを進め、ユニバーサルデザインの先進都市になる。
- ハードを整備するだけでなく、ハードの不整合を解消するためのソフト面での努力が必要である。

提案された取組み

- ・佐賀の“パーキング・パーミット”や、熊本の“変わるタイミングや待ち時間を視覚的に表示する信号機”など、九州内の先進的な取組みを取り入れる。
- ・ブラインドサッカーなど、スポーツで自然に理解を深める。
- ・海外から訪れる人に対するユニバーサルデザインを進める。
- ・都心の回遊性を高めるため、歩道のバリアフリー化を進める。
- ・まち中の英語表記をより細かいところまで行き届かせる。
- ・外国人を交えたコミュニティづくりを進める。

(ライフスタイル)

『心をゆったり幸せに暮らせるストレスフリーなまち』

- 居心地のよいスローライフ、ゆったり過ごせる空間・生活を形成する。
- 自分らしく生きる夢を実現できる。

提案された取組み

- ・仕事と生活のバランスを保つことができるよう、福岡型のワークシェアリングを導入する。
- ・家族構成が変化しても住み慣れた地域に住み続けることができるような、地域内住み替えサポートサービスを整える。
- ・高齢者の外出の動機付けの一つとして、住宅街に残された未利用農地を市民農園(家庭菜園)として活用していく。
- ・通勤時間が短いコンパクトな都市であることを活かした、福岡らしいライフスタイルを提案・情報発信していく。
- ・子育てに優しいよう、高齢者だけの世帯が増えないよう、二世帯・三世帯同居を促進する。

3 コミュニティ

(コミュニティ)

『コミュニティの再デザイン、新たなつながりが生まれる対話と交流のまち』

- ふらっと行ける地域の居場所があるなど、世代間での対話の場が日々たくさん存在する、垣根が低いオープンコミュニティで、面識のあるつながりが生まれる。
- 住んでいる人が当事者として、ビジョンと志、誇りを持って、まちづくりに入り込むことが、よりよいまちづくりにつながり、シビックプライドの醸成につながる。

提案された取組み

- ・そのまちオリジナルの新たな現代の祭りを市民が手作りし、まちへの愛着・誇りを高めるというような仕組みを整える。
- ・その地域の個性が平準化して丸くならないように「アーバン・ビレッジ」(都市の中の村)をつくる。
- ・市内の公園や広場、オープンスペースを市民参加型の市場として活用する。
- ・家の近所で親や同級生以外と交流する場をつくる。
- ・地域に、医療・福祉・住宅・生活支援などのよろず相談のできる場(コンシェルジュ)を置く。
- ・公民館を活用して、誰もが気軽に集う「地域サロン」や、人や情報が集まり、地域との自発的な関わりを実現する場「まちのコラボレーション」や、地域問題解決を進める「フューチャーセンター」のような場を整備する。
- ・使用していない空き教室などを「生きがいカフェ」として、文化活動や学習の場として地域が運営する。

4 生活基盤・交通

(都市計画・街並み)

『既存のストックの利活用で美しさと新たな価値観を生み出すコンパクトなまち』

- スクラップ・アンド・ビルドだけでなく、パリやニューヨークのような、既存のストックをうまく利活用することにシフトすることが必要である。
- 都市計画は住居、商業、工業地域をそれぞれ青、赤、黄色で「塗り分け」るのではなく、どう「混ぜ合わせ」て綺麗な色で描くか。
- 博多、天神といった大きな括りではなく、春吉、今泉、大名などそれぞれの場所ごとの個性、位置付けをもっと差別化して、しっかりした機能を作り込み、違いをいかに打ち出すかが、今後のまちづくりのポイント。

提案された取組み

- ・既存の建物を共有できるように手入れを行い、各世帯の人口変動に合わせて住空間を変えることが可能な仕組みを導入する。
- ・地域のまちづくり活動や団体間の連携活動を支援するアーバンデザインセンターを設定する。
- ・博多・天神といった大きな括りではなく、春吉、今泉、大名などそれぞれの地域の個性を分かりやすくプロデュースしていく。
- ・海外からの長期滞在や居住をクリアできるような交通・買い物・医療といった基盤を整備する。
- ・福岡市内で二酸化炭素を吸収できるよう、建物全てを屋上緑化にし、上空から見ると一面緑の森林都市にする。
- ・今後急増する海外の100万人都市に対して、人口増と並行して3C(コンパクト、コンビニエント、クリーン)と整った交通体系を保つ「福岡モデル」をPRしていく。

(交通・ネットワーク)

『量の交通から質の交通へ転換するまち』

- 車を中心としないで、連結バスのBRTや地下鉄のさらなる充実、ベロタクシーや自転車の利用を組み合わせる。
- 交通事故多発都市からの脱却にむけ、クルマから自転車へ大胆にシフトし、法律順守の徹底、自転車インフラの整備を進め、スマートでエコな自転車先進都市に転換する。
- 今あるインフラを最大限活用するため、つながりを考えたマネジメントで、使いやすいネットワークをつくる。

提案された取組み

- ・自転車やベロタクシーなど多様な交通手段を活用する。
- ・九大の伊都キャンパスやベイサイドプレイスへの交通アクセスを改善する。
- ・都心部に連結バスのBRTを走らせたり、外環状線や都市高速上に連結バスを走らせるなど、定時性とキャパシティ向上を兼ね備えた新たな公共交通を研究・実験する。
- ・レンタサイクル、ベロタクシーの配備、タクシーやバス、LRTの活用、自転車インフラの整備を進める。
- ・幹線道路のトランジットモール化と合わせ、都心部への一般車両の乗り入れ規制を実施する。
- ・港から天神、博多につながる間をすべて歩行者天国化し、露天を設け、歩きたくなる仕掛けを行う。

5 自然・環境

(自然・環境)

『「もったいない」が一步進んだ、 環境・エネルギー技術のショーケースとして発展するまち』

- 自給できるクリーンエネルギーに支えられた、世界に誇れるエコシティになる。
- 自然と人が共生し、自然を損なわない。水を守り、水に親しむ。
まちなかのたくさんのみどりが豊かさを生むまちになる。
- ごみの排出量抑制、リサイクルが自然にでき、“ものを大切にする”、“皆で使う”精神が根付いた賢い市民の住む循環のまちになる。
- 成熟した社会では、成長ではなく持続可能な地域社会を目指す必要がある。

提案された取組み

- ・自然エネルギーを活用する。
- ・多様な自然環境の財産を活かし、あらゆる場や機会を通して環境教育を行う。
- ・有機性廃棄物の循環システムをつくり、有機物のリサイクルを行う。
- ・大規模な開発を行う場合に、同等以上の自然を近くに再生させることを義務付ける日本初の「環境オフセット制度」を創設する。
- ・二重窓の設置により冷暖房によるエネルギー消費量を削減する。
- ・都心部ビルの建て替えにあわせ、壁面、屋上及びオープンスペースの緑化を奨励して、都心部ビル「総アクロス化計画」を実施する。
- ・通行車両の振動を元に発電する振動舗装など既存の道路空間を活用して新エネルギーを創出する。
- ・浄水場に小水力発電設備を積極的に導入し、電力消費量や温室効果ガス排出量の削減に取り組む。

6 安全・安心

(安全・安心)

『発展と治安の両立した、皆が安全で安心して暮らせるまち』

- 発展の中にあっても犯罪が少なく治安がよいこと、飲酒運転をなくし交通安全であること、災害に強いこと、そしてマナーアップしていること。安全・安心な生活環境をつくり、守ることは、都市の大きな財産である。

提案された取組み

- ・行政や財界のリーダーが市民と一緒に取組みを進める。
- ・防災拠点の整備とともに、防災・減災に活用できる民間の施設も含めた整備を行う。
- ・市内にいる全ての人が、少しでも早く避難行動が始められるような情報伝達手段を整える。
- ・飲酒運転を撲滅する。
- ・安全に安心して暮らせるよう、地域の防災リーダーの育成と活用、緊急情報サービスの充実など、防災活動を通じたコミュニティの強化などに取り組む。

7 歴史・文化・スポーツ

『歴史・文化・スポーツで充実した市民の時間が、世界をひきつけるまち』

(歴史)

○伝統や歴史を守る一方、歴史に関わる観光資源を掘り起こして、都市観光に活用すべきである。

提案された取組み

- ・「福岡のまちの歴史を感じる日」を設ける。
- ・市民会館の立て替えの際に、福岡の歴史アーカイブ施設を作る。
- ・歴史的建造物、寺社仏閣、町屋、近代建築などを都市観光に活用する。
併せて、税控除や助成などで形成・維持支援を行う。
- ・職人が博多織を織ったり、博多人形を作ったりしている様子などが全部見られるような博多の名所となる「門前町」を創る。
- ・福岡城天守閣、鴻ろ館を復元し、歴史的象徴として、観光資源や都市イメージの形成に活用する。

(文化)

○文化・伝統そのものの保存と創造、文化に親しむ場や機会の提供、成熟した都市間競争において、文化は欠かせない魅力である。市民の幸せや楽しみにどう繋げるか、の観点が大切。

提案された取組み

- ・博多座や九州国立博物館(太宰府市)など文化の高さをまちの魅力として情報発信を行う。
- ・伝統文化に裏付けされた地元コンテンツを創り、文化発信力を高める。
- ・芸術や文化の学術センター、大学をつくり、アジアの芸術家を育成し、「アジアの文化を学ぶのであれば福岡で」となるような情報発信を行う。
- ・九州やアジア各地から表現者達を集め、福岡、韓国、中国の海に面する都市を船でつなぐようなアジア文化祭的な仕掛けを行う。
- ・行政が行う文化や生涯学習事業などは、大学やカルチャーセンター等に任せ、その大学等に補助をしたり、受講者にクーポン券のような形で補助する。
- ・現在、行政が行っているホール施設などの運営を文化・芸術のプロが行う。
- ・才能ある創作者たちが表現を行う場をつくる。
- ・クリエイター、芸術家、富裕層・有名人らの活動地、居住地などとして、芸術村を整備する。

(スポーツ)

○プロなどトップ選手や国際的なスポーツ大会に身近に触れること、子どもから高齢者までいつでもスポーツを楽しむこと、観光にも日常にも楽しめるスポーツの魅力を充実させる。

提案された取組み

- ・一人っ子政策の影響でわがままで協調性のない子が育っているという中国の問題などアジアの課題解決のため、トップ選手を育成するのではない幅広いスポーツ環境を活かして、解決し、健全にしていく。
- ・失われた外遊びの代用としてのスポーツが、自ら考えて自立する子ども達を育てるとの視点から、中学校の部活動に正しい指導者、指導方法を入れ、子どもを安全にきちんと育成するなどの取組みを進める。
- ・盛んなプロスポーツを活かし、アジアの選手を獲得するなどして、観光客誘致などにも活かす。
- ・高校野球の決勝戦ができる球場をつくる。
- ・スポーツへの取組みをシーズン制にして、いろんなスポーツに関われる環境を作る。
- ・ホノルルマラソン、東京マラソンのような魅力的なスポーツイベントを開催し、スポーツツーリズムを推進する。
- ・欧米のように、まちがスポーツを育てるとい文化を育む。

8 観光・集客

(観光・コンベンション)

『来街者がドラマを感じる、わざわざ行きたくなる吸引力のあるまち』

- 思わず交流した来街者が、心通うおもてなしに魅せられ、その繰り返しが、福岡のすべての場所を交流のフィールドにする。
- コンベンションや国際会議などMICEに力を入れたり、滞在型観光を受け入れたりすることで、都市と人をつないでいく。
- アジアの中の福岡という視点で福岡ブランドを築き、国内だけでなく多言語でのPRに力を入れ、集客マーケティングをする必要があり、観光客が来れば来るほどまちが良くなっていくような整備をするべき。

提案された取組み

- ・プロモーションを実施する国をもっと広げ、質の高い英語や多言語での情報発信を行う。
- ・当日や前日に予約が出来る仕組みなど、お客様の利便性に応える仕組みを整備する。
- ・公共施設だけでなく民間施設にも誘導するサインマップやガイドブックを充実させる。
- ・ヨーロッパにあるような情報提供のキオスクを明治通りや渡辺通りに設置する。
- ・博多の禅寺をめぐる観光コースを作る。
- ・柳橋連合市場や鮮魚市場といった都市内の市場を市民の日常生活にもっと近づけ、都市観光として活用したりする仕組みをつくる。
- ・工場見学など海外の方にも人気があるコンテンツを絡めて、姉妹都市と相互に観光・おもてなしに取り組む。
- ・コンベンションや国際会議などMICE(展示会、会議、研修、セミナー、学会、国際会議、視察など)を増やす。
- ・様々な展示会を誘致し、市民が気楽に訪れて色々なよさを体感し、体験したり勉強したりできるようなコンベンションを開催する。
- ・ベンチやポケットパーク、歩行者天国、オープンカフェを増やす。
- ・退職した方を中心とした観光客案内ボランティアを配置する。
- ・中洲を女性や子どもでも親しめるように整備する。
- ・福岡を拠点として九州各地を巡る観光ルートを確立する。
- ・海を活かしたリゾート、遊園地分野などで、核となる企業を誘致したり、国際スポーツ大会を誘致する。
- ・昼の魅力だけでは日帰りされるので、宿泊してもらえよう、夜と朝の魅力をつくる。
- ・市営地下鉄に、夏の「ピアトレイン」や、アニメキャラクターなどの「ラッピング列車」などの企画列車を運行して、普段利用の方以外の需要を取り込む。

(エンターテインメント)

『祝祭が年中ある、非日常を楽しむエンターテインメントシティ』

- 芸所・博多のイメージがあり、「山笠」や「どんたく」といったまつりを抱え、元来「まつり好き」の気質があるなど、エンターテインメントとの親和性が高いことを利用する。
- 新しいテーマパークなど集客施設の整備や、共通の趣味を持つ仲間と会えたりする場所の整備、食を活かす特徴あるイベントの開催などを通して、賑やかさを演出する。

提案された取組み

- ・数日から一週間滞在して楽しめるビッグイベントや祝祭が、年中開催されている状況を作る。
- ・大型レストランではなく、小さなお店がたくさん並ぶようなストリート文化を伸ばす。
- ・マニアックな心を爆発させることができたり、共通の趣味を持つ仲間とそこに行けば会えたりするような場づくりを行う。
- ・食を活かした特徴ある観光立市を目指す。
- ・福岡空港を移転し、その跡地に動植物園を移転させた上で、防災機能を持たせたテーマパークである森林公園「ディズニーの森」を創設する。

9

農林水産

(農林水産)

『九州の安全・安心で美味しい食を、アジアに売り出すまち』

- 九州の農産物が「安全・安心で美味しい」とアジア市場で認知されるように、品質を高め、ブランディングしていく。
- 地産地消の広域での実施や、素材を加工して付加価値を上げるなど、第一次産業の発展を図る。

提案された取組み

- ・農家と消費者を直接つなげ地産地消を広域で実施する。
- ・国際地域ベンチマーク協議会で繋がっているような海外都市との間で、農業技術の交流、農家の交流、物々交換のような農産品の交流事業を実施する。
- ・九州の農産物がアジア市場で認知されるような仕組みを確立する。
- ・食について、「安心・安全」のキーワードで素材品質を高めるとともに、素材を加工して付加価値の高い商品を生産し、アジア・世界へ輸出する。
- ・図書館の玄関先で野菜等の食品を販売し、レシピ本の貸出や販売とリンクさせる。
- ・九州全域の農林漁業の産物、手工芸品、芸術家の優れた作品などを展示販売する市場「九州マルシェ」をつくる。
- ・九州大学農学部との共同研究により開発した農業新技術、改良品種、環境配慮型の減農薬農法を「知的財産」として海外に輸出する。
- ・鮮魚市場をリニューアルして観光地化し、新鮮な魚が味わえる福岡版「フィッシャーマンズワーフ」として整備する。

10

アジア・国際化

(アジア・国際化)

『外国人も住みたがり、多文化が日常化した、ポードアレスなアジアの拠点になるまち』

- 雇用機会が多く、住みたがる外国人が増え、多様な言語と国籍が存在し、多様性を包み込み、多文化が日常化するなど国際化が進んでいる。
- アジア内のビジネスを増やし、西日本との流れの結節点になることを目指す。
手始めに、アジアの中核である九州とアジアの人の流動化を進め、国内市場を拡大させる。
- 勤勉な国民が多く経済成長もしていく潜在性の高いベトナムなど、政治的なリスクが低い東南アジア諸国との結びつきを深めたり、アジア太平洋子ども会議に象徴されるような、アジアだけでなく日本とアジア太平洋地域をつなぐ架け橋として機能する。

提案された取組み

- ・外国人の居住や雇用、生活をケアするワンストップサービスを設ける。
- ・水などのインフラを軸に、企業を持つノウハウの海外展開と、技術者の技術伝承を図るという点の両方から東南アジアへの企業進出を進める。
- ・国際戦略特区として、法人税を15%引き下げ、傘下のアジア企業の経営者・従業員に対して長期ビザを発行する。
- ・アジア統括会社に対して金融機関、弁護士、会計士、税理士などが専門的なサービスを提供する。
- ・福岡証券取引所でアジアにリンクしたファンドを上場させて、地場銀行の窓口等で販売する仕組みを作る。
- ・勤勉な国民が多く経済成長もしていく潜在性の高いベトナム、政治的なリスクが低い東南アジア諸国、特にタイ、インドネシア、マレーシアとの結びつきを深める。
- ・少子高齢化のようにアジア諸国が同様に対処していかなければならない共通の課題について、日本(福岡)がさまざまなデータを分析してアジア共有の知的資産を作る役割を担う。
- ・アジア太平洋子ども会議の人的ネットワークを活用し、ビジネスにつなげる。
- ・中国ビジネスに関して個別企業が個々にやるだけでなく、情報をお互いに共有し官民が一体となった「日中投資促進機構」のようなアジアビジネス推進組織の核を福岡で作る。
- ・広州や釜山に「リトル福岡」を作り、福岡や九州に「リトル広州・リトル釜山」を作って交流を活発化する。
- ・全市立学校でアジアの国々との姉妹校締結し、校内放送や掲示物など学校文化にアジアを取り込む。
- ・アジアとの交流の象徴的なものとして、アジアの日を設ける。
- ・釜山、青島や大連の心ある若者や中小企業を呼び寄せ、定住させる。

(外国語・インターナショナルスクール・留学生)

『学び続ける多言語教育のまち』

- 国際化人材育成のため、義務教育で多言語教育を実施したり、APU(立命館アジア太平洋大学)以上に英語教育を徹底して行う高等教育機関を整備したり、企業が従業員にモチベーションやインセンティブを与えて促すなど、社会全体で英語力を育てていく必要がある。
- 外国人の定住を促すためにも、海外のビジネスマンの子女の教育を任せられる質の高いインターナショナルスクールを整備する。
- 即戦力として外国人研修生や留学生がいるのだから、活用できるビジネス展開を図って、雇用を拡大していくことも考えるべき。

提案された取組み

- ・小中学校での多言語教育を進める。
- ・事情があり留学などできない学生や、学生の国際交流をサポートする取組みを行う。
- ・アジアの言葉を話せる通訳案内士の充実・強化を行う。
- ・インターナショナル・スクールの質や量を高めたり、APU(立命館アジア太平洋大学)以上に英語教育を徹底してやる高等教育機関を整備する。
- ・外国人教師の採用増や留学生の派遣・受け入れ増に加え、企業も従業員にモチベーションやインセンティブを与えるなど、社会全体で英語力を育てる。
- ・地理的優位性を生かして中国のトップクラス大学を卒業した優秀な人材を受け入れ、地場産業に取り込み、中国や韓国企業と連携する中核的人材などに活用する。
- ・福岡を出た人材がアジア諸国を回ってまた戻ってくる「福岡イニシアティブ」とも呼べる人材育成モデルをつくる。
- ・英語だけで話すような授業や韓国にある英語村のような施設を設置し、市民の英語力を高める。
- ・学校跡地、海の中道青少年海の家を活用した「地球っ子スクール」(英語村、中国語村、韓国語村)を創設する。

(広域)

『九州が一つの都市圏になって成長し発展するための核となるまち』

- 海外との競争で脅威にさらされる福岡は、九州プラス山口県ぐらいのエリアで「アジアに向けた窓口」をキーワードにバランスをとって都市圏になり、全体の発展につなげる発想も必要。
- 生産機能、観光拠点など福岡市単独で担えない機能や、広域の発想での空港の役割分担など、覇権主義ではなく一体となった発展をめざすべき。

提案された取組み

- ・北九州市のようなモノづくりが強い地域のメーカーによる技術革新、福岡市のような大学や研究機関が多い地域による人材供給など、それぞれの地域に特色ある取組みで九州一丸となって海外と競争をしていく。
- ・広域の観点から北九州空港、佐賀空港、熊本空港、長崎空港などをどう活用して広域都市圏および九州全体の成長につなげるか検討する。
- ・九州各地域のコーディネーター役を担う取組みを進める。

11 港湾・空港

『利便性の高い空港と港湾でアジアに直結するまち』

(港湾)

○港湾は物流・人流ともにアジアとの近接性を活かせる強みであり、ターミナルやその周辺の整備など、ウォーターフロントの整備を行うことで、その効果を高めていく必要がある。

提案された取組み

- ・ターミナルを整備、荷役や通関のサービスを向上して、RORO 船の航路とネットワークを充実させ付加価値を高める。
- ・アジアに向けた、楽しめる施設のある港湾整備を行う。
- ・(シドニー湾のように、)港近くにホテルや結婚式場などを作って、博多湾クルージングが名物になるような仕掛けを作る。
- ・博多湾から市街地に吹き込む風を妨げないような工夫がされた建築が行われるようなインセンティブを設ける。
- ・海と街の間を塞いでいる施設を整理し、買い物ついでに海沿いも歩けるような場所を復活させる。
- ・博多港の優位性を利用して、東アジアのコンビニに、福岡の明太子を使った“明太子カルボナーラ”などのお惣菜を届ける仕組みをつくる。

(空港)

- 福岡空港の利便性の良さを最大限活用するために、空港へのアクセスをさらに改善したり、他の空港との役割分担により最も効果的な利用に努めるなどして、機能を高める必要がある。
- 福岡空港は、新たに滑走路2本の24時間空港として整備すべきである。

提案された取組み

- ・福岡空港の貨物便を24時間運用できる北九州空港にシフトさせ、空いた時間帯を活かして旅客便の新路線開設や増便に当てたり、九州新幹線を活用した近隣県とのアクセスを充実させる。
- ・朝アジアに飛んで、夜に帰って来ることができるダイヤを設定する。
- ・地下鉄は福岡空港国際線ターミナル本体まで延伸する。
- ・都心近郊に小型機用の空港を整備する。
- ・福岡空港と佐賀空港を連携させ、効率的に運用する。
- ・アメリカ直行便を復活させる。

12

産業振興

(産業振興・雇用)

『働く場がたくさんあり、わたらしい働き方が選べるまち』

- 支店経済をはじめ従来の経済から脱却し、発展のための新しい地域経済戦略で、戦略的選択と持続性の経済へのチャレンジを行う。
- 学生が福岡で就職活動する際にも、あるいは東京などで働いている人が福岡に戻ろうと考える際にも、非常に有望な中小企業であっても就職を希望しないという現状を打破し、人材のミスマッチを解消する。
- 働く場がたくさんあり、就職、退職、再就職などを選べるような、わたらしい働き方・生き方ができる場になる。

提案された取組み

- ・バイオ、ナノテク、アニメ、ゲーム、バーチャル技術、省電力技術や緑化技術など成長が期待できる「柔らかな」技術に力を入れる。
- ・「虚(ソフト)」と「実(ハード)」を組み合わせる第4次産業をおしていく。また、第3次産業を先進的なサイエンスに根ざした知的産業の集積と組み合わせる。
- ・分野を絞って戦略を立て、フォーカスする分野に積極的に助成し、振興する。
- ・規模は小さいが地域性があるクリエイティブな企業を集積し、雇用を確保する。
- ・IT分野における産学連携では、教育・研究と企業活動を連携した長期的なインターンシップ制度を整える。
- ・沖縄に優位性があるコールセンター立地を、九州に来るようにインセンティブをつける。
- ・感性に訴える目に見えない価値を作るサービス・イノベーションを重視していく。
- ・音楽をはじめいろいろな分野で芽が出た人に、東京に行かなくても福岡でさらに活躍できるステージを提供できる受け皿をつくる。
- ・マニファクチュアリングではなく、サービスの分野で中小企業を育てていく。
- ・国際化した医療産業というのを一つの成長産業として育てていく。

(起業)

『国境を越えてプレイヤーが羽ばたき、夢が成長のエネルギーになるチャレンジのまち』

- 起業しやすく、チャレンジができ、夢が叶う。未来に出会うチャンスとチャレンジのフィールドとして、人材が集まり、人材を輩出する、チャレンジの聖地になる。
- 新しいベンチャー企業が相次ぐ創造都市になる。

提案された取組み

- ・図書館に起業者向けインキュベーション施設をつくり有償開放する。
- ・起業する人を増やすために、初期投資の資金提供をしたり、中小企業支援を厚くしたりする。
- ・ベンチャー支援として、エンジェルファンドをつくる。また、遊休施設を低価格で企業に賃貸する。
- ・九州・アジアビジネス協議会が実施する研修プログラム「実践アジア社長塾」のようなサポートを通じて、起業家や人材を育成する。
- ・中立的なオープンイノベーションを促進できるような場をつくる。

(企業誘致)

『企業から選ばれ、愛され住みたいと思われる憧れのまち』

- 福岡の魅力をきちんと伝え、国内外を問わず、アジア統括機能や本社機能、本社バックアップ機能を誘致する必要がある。

提案された取組み

- ・東京に本社を置いている事業会社のアジア統括機能を福岡に誘致する。
- ・国内企業の本社ないし本社バックアップ機能を誘致する。
- ・外資系企業のアジア本社や拠点を誘致し、東京以上のマーケティング機能を提供する。
- ・シアトルのマイクロソフト、スターバックス、ボーイングといった、世界展開している大企業を誘致する。
- ・研究部門やデザイン部門を誘致し、知的産業の受け皿を福岡に整備する。
- ・アジアに関する産学連携研究施設や研修施設を誘致・開設し、海外からそこに来る高度人材の2～3割に10年前後福岡に留まってもらうような仕掛けをつくる。